

自己点検評価報告書（中間評価用）【記入要領】

採択大学名	〇〇大学		学長名	〇〇 〇〇		
連携大学名	〇〇大学、〇〇大学、〇〇機構					
参画機関名	〇〇大学、〇〇大学					
補助事業の 概要	交付申請時に記載した補助事業の概要を記載					
10年後の大学ビジョンに おいて強化を図る機能	機能①	○	機能②	○	機能③	

採択状況	○	施設の本格稼働時期	令和7年4月
施設の名称	○○○○○		
施設の概要	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		

※「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」（令和4年度文部科学省事業）に採択されている場合は丸（○）を記載し、施設の本格稼働時期（必要な設備・機器の設置、オペレーション・企業の入居体制の確立などが完了し、研究者や外部利用者が研究活動やサービス利用を開始できる状態となる時期）、施設の名称、施設の概要を簡潔に記載すること。

採択大学名

- ・大学ビジョン実現に向けて、アウトプット・アウトカム指標に照らし、取組が着実に進捗しているか。
 - ・申請時に選択した「10年後の大学ビジョンにおいて強化を図る機能」に応じた大学の研究力強化が図られているか。また、本事業により得られた研究成果が地域や社会の課題の解決に向けて、どの程度社会に影響を与えることができたか、又は出来る見込みがあるか。
 - ・施設整備事業において、又は別途整備した施設と本事業の相乗効果が創出されているか。
- ※大学ビジョン実現に向けて、本事業の成果を基に、拡張して実施している取組については積極的に評価する。
- ※大学内で取り組まれている改革等を基に、当初の計画を超えて他大学や関係府省庁、自治体、民間企業等への展開がなされている場合は積極的に評価する。
- 他大学への展開については、自大学で挑戦的に実践した好事例について、申請調書様式2に記載する連携機関のみならず、自大学以外のJ-PEAKS採択大学又はその他大学に公開・提供した実績も記述することができる。
- ※評価にあたっては、当初設定した指標の水準やその後の事情の変化を必要に応じて考慮する。

2) 研究力向上計画の進捗状況

※申請調書様式4-1（及び様式4-2）「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」研究力向上計画に記載した取組内容について、申請調書での記載順に進捗状況を記載すること。

1.

2.

3) 資金計画の進捗状況

本項目については、以下の観点で評価を行うことから、観点到に沿った取組状況について記載すること。（なお、記載内容が重複している場合は記載箇所を示し、省略することを可とする。）

- ・大学ビジョン実現に向けて、資金計画の観点から、研究力向上計画の実施に必要な戦略的実行経費及び研究設備等整備費の執行は着実に進捗しているか。
 - ・大学の取組の持続的な展開に向けた、5年間の支援期間終了後の継続及び発展に向けた既存の経費の合理化や外部資金の獲得状況について当初計画に沿って着実に進捗しているか。
- ※大学の経営リソースの拡張を図るため、当初の計画を超えて、関係府省庁、自治体、民間企業等からの外部資金の獲得等、資金源の多様化を図っている場合は積極的に評価する。

2. 全学への波及・ガバナンス体制について（2ページ以内）

本項目については、以下の観点で評価を行うことから、観点到に沿った取組状況について記載すること。（なお、記載内容が重複している場合は記載箇所を示し、省略することを可とする。）

当初予定していた内容に遅れや課題等がある場合は、その原因や改善の方策について記載すること。

- ・日本の研究力を牽引する研究大学群の一翼を担うことが意識され、本事業による取組が特定の研究拠点に限定せず、学内の他の組織等に研究力強化の効果を波及させる全学的な取組が進捗しているか。
- ・「研究力の向上戦略」を推進するために必要なガバナンス体制が整備され、リソース配分や組織改革を推進させるなど、採択大学の強みや特色ある研究拠点等が、大学執行部の積極的な関与のもと、組織的に充実した活動を行える運営マネジメントがなされているか。
- ・研究設備等整備経費での研究設備等の導入・更新・共用又は共同利用について、戦略的に着実に進捗しているか。

3. 研究者及び研究支援人材の育成・採用・獲得について（2ページ以内）

本項目については、以下の観点で評価を行うことから、観点到に沿った取組状況について記載すること。（なお、記載内容が重複している場合は記載箇所を示し、省略することを可とする。）

当初予定していた内容に遅れや課題等がある場合は、その原因や改善の方策について記載すること。

- ・世界で活躍出来る研究者、博士課程学生を含む若手研究者及び研究支援人材について、優れた人材の育成・採用・獲得が時間軸や人数等の定量的な内容を含め、着実に進捗しているか。
- ・若手研究者及び研究支援人材の育成に向けた、大学院を含めた環境改善・向上の取組が適切に進捗しているか。

4. 他機関との連携について（2ページ以内）

本項目については、以下の観点で評価を行うことから、観点到った取組状況について記載すること。（なお、記載内容が重複している場合は記載箇所を示し、省略することを可とする。）
当初予定していた内容に遅れや課題等がある場合は、その原因や改善の方策について記載すること。

- ・他機関との連携による相乗効果が創出されている、又は今後創出されることが見込めるか。
- ・「研究力の向上戦略」の実行に当たって必要な企業・地方自治体・国際機関等と実質的な連携が進捗しているか。
- ・（連携大学がある場合）採択大学を中心とした研究力向上に向けて、相互に資金的・人的コミットメントがある等、実質的な連携が図られているか。
- ・（連携大学がある場合）採択大学が中心となった円滑な運用体制が構築され、機能しているか。

※当初の計画を超えて、他機関との連携が図られている場合は、積極的に評価する。

なお、他機関との連携に関する内容は、連携に当たって工夫している点や重視している点を含め、詳細に記載することができる。本項目でいう他機関とは、申請調書様式2に記載する連携機関のみならず、自大学以外のJ-PEAKS採択大学、その他大学等の機関を指す。

5. 今後2年間及びビジョン実現までの7年間の将来構想について（2ページ以内）

本項目については、以下の観点で評価を行うことから、観点到った取組状況について記載すること。（なお、記載内容が重複している場合は記載箇所を示し、省略することを可とする。）

- ・研究力の向上戦略及び研究力向上計画で示した10年後の大学ビジョン実現に向けて、これまでの活動を踏まえ、今後2年間で必要に応じてどのように構想を発展的に再構築し、全学的かつ連携機関とともに研究大学群としてさらなる強化・発展を図っていくのか。また、ビジョン実現までの7年間の将来構想に向けた取組が明確で、挑戦的な構想であるか。

6. その他、特筆すべき事項（1ページ以内）